

(様式第1号)

| | |
|-----------------|---------|
| 研究No. (記載不要) | 21—学長—7 |
|-----------------|---------|

平成21年度配分 研究成果の概要

| | | | | | |
|-----------------|--|----------|--------------------|-----------------------|-------------------------------|
| 研究名 | 「身体文化とメディアの融合と創造」 | | | | |
| 配分を受けた特別研究費 | 特別研究費 | | | | 2000千円 |
| 研究者氏名 (代表者) | 学部名 | 学科名 | 職 | 氏名 | 共同研究の場合の分担 |
| | 文化政策学部 | 国際文化 | 准教授 | 溝口 紀子 | 研究総括 |
| 共同研究者 | デザイン学部 | メディア造形学科 | 講師 | 和田和美 | WEB映像開発指導 |
| | 文化政策学部 | 国際文化学科 | 准教授 | トーマス・パルス | 英語ディプロマコース 学生翻訳指導 |
| | 文化政策学部 | 国際文化学科 | 講師 | マーク・シーハン | 英語ディプロマコース ディプロマ学生翻訳 指導 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 発表の方法 (予定で可) | 1 紀要 | | 号数 | 第 10号 (2010年 3月発行) | |
| | 2 学会等での発表 学会等名: | | 発表日 (発表 予定日) | 平成 年 月 日 | |
| | 3 その他 発表の方法: 東京大学大学院 総合文化 研究科 関連社会科学 リサーチコロキウム | | 発表日 (発表 予定日) | 平成22年 6月30日 | |

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本研究では、「身体文化とメディアの融合と創造—日本とフランスのスポーツ文化とメディア・スポーツの未来—」をテーマに以下の3つの点から、10周年記念行事として、スポーツ文化、グローバル化の読み解き、論議を踏まえた新世代メディア開発などのプロジェクトを行うことで新しい社会秩序やメディア技術をSUAC から発信し、新しいスポーツ文化を検討することを目的とする。

(研究の実施方法等)

- ①フランス人と日本人のメディア・スポーツ関係者によるシンポジウムを開催することで、公共性(グローバルアクセス権)やグローバル化の中における現代のメディア・スポーツの実像や問題点を明らかにする。
- ②日本固有の身体文化の武道(柔道)がどのように世界に伝播し、多文化共生社会のなかで、武道(柔道)文化を構築していったのかを検証していく。
- ③FLASHを活用した新世代メディア・スポーツの開発

(得られた成果等)

平成 21 年度静岡文化芸術大学文化政策学長特別研究「身体文化とメディアの融合と創造」の成果として、平成 21 年度 8 月 1 日(土)静岡文化芸術大学開学 10 周年記念「メディア・スポーツシンポジウム」を開催し、さらに研究成果を一般市民や関係者に発表する目的としてSUAC文化芸術セミナーを平成 21 年 9 月 20 日、27 日、10 月 4 日に開催した。

メディア・スポーツシンポジウムでは、日仏のスポーツジャーナリストを招き、「グローバル化するメディア・スポーツ」をテーマに、日仏のスポーツメディアの特徴やメディアスポーツの将来について300名の参加者を交え議論を交わした。これまで、フランスのメディア・スポーツに関する研究については、まったく行われておらず、本研究の成果はスポーツ社会学分野では期待されている。

加えて来年度の本学新カリキュラムから学科専門科目、多文化共生系の中で「スポーツ文化論」が開講されることに関連し、さらに教育基本法の改定により平成 24 年度より中学校での武道必修化が始まることを受け、「グローバル化するスポーツ文化—武道を考える—」をテーマに取り上げることで地域にスポーツ文化の理解を促していくことができた。

詳細については、静岡文化芸術大学大学紀要 vol.10 を参照いただきたい。